鹿児島県文化財調査報告書第67集

令和３年３月

鹿児島県教育委員会

出水貝塚出土品

喜界島百之台の隆起サンゴ礁

サキシマヌマエビ

大隅石

阿多貝塚

岩元家住宅主屋

遠藤家住宅主屋

序　　文

鹿児島県教育委員会では，貴重な文化財を調査し，記録保存することにより，郷土の文化財を正しく理解し，文化財愛護思想の一層の高揚を図ることを目的として，昭和28年度から文化財調査報告書を刊行しています。

今回は，第67集として，県文化財保護審議会委員が令和２年度に実施した有形文化財及び記念物の文化財調査報告４件の概要を掲載しました。

また，今年度新たに国指定文化財として指定された史跡「阿多貝塚」や，国の登録有形文化財(建造物)に登録された「岩元家住宅主屋」，「遠藤家住宅主屋」の概要も併せて掲載しました。

本書が，文化財の保存・活用を図るために広く活用されることを期待します。

最後に，御多用の中，調査・執筆に当たっていただいた県文化財保護審議会委員の方々に深く感謝申し上げます。

令和３年３月

鹿児島県教育委員会

教育長　東條広光

目　　次

序　文

第１章　文化財調査報告
1　出水貝塚出土品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2　サキシマヌマエビ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
3　大隅半島の垂水市早崎(咲花平)から発見された
　大隅石(オオスミライト)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
4　喜界島百之台の隆起サンゴ礁・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

第２章　国指定文化財（記念物）
史跡「阿多貝塚」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

第３章　国登録文化財
1　有形文化財(建造物)「岩元家住宅主屋」・・・・・・・・・・・・・38
2　有形文化財(建造物)「遠藤家住宅主屋」・・・・・・・・・・・・・38

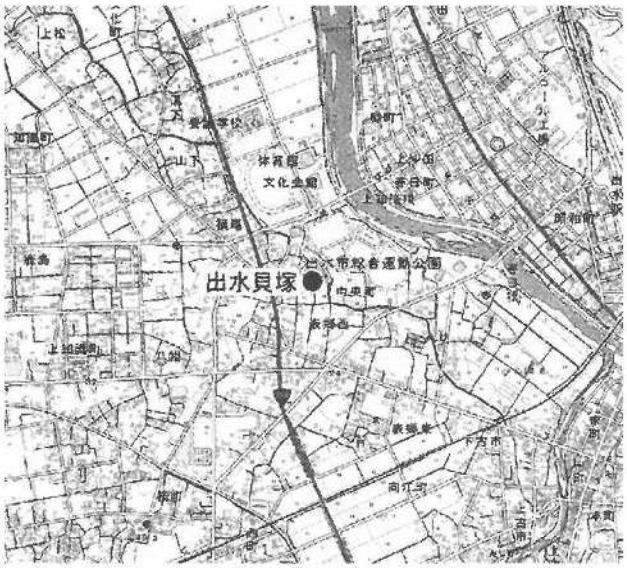
第１章　文化財調査報告

出水貝塚出土品（いずみかいづかしゅつどひん）

県文化財保護審議会委員　本田道輝

1　はじめに

出水貝塚は、出水市大字上知識字尾崎（現在の出水市中央町）に所在する鹿児島県を代表する縄文時代貝塚の一つであり、縄文時代後期前半西九州に広がる「出水式土器」の標式遺跡でもある。

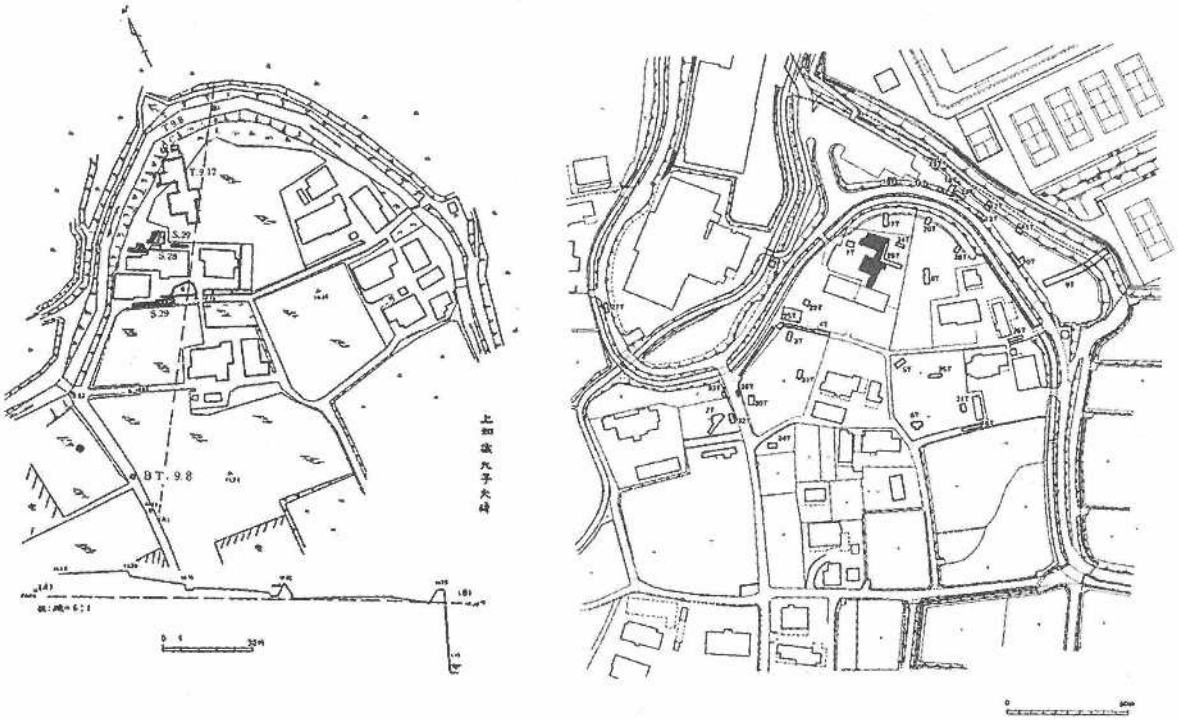


第１図　出水貝塚位置図

貝塚は、米ノ津川左岸に広がる大野原台地東縁部で、北側に広がる沖積低地を望む舌状地形の場所にあり、海岸より約４㎞、標高22～23mで沖積低地との比高差は５～６ｍとなる。貝塚発見から最初の発掘調査が行われるまでの経緯は、かつて出水貝塚を二回調査した河口貞徳が「本貝塚は大正６年に、土地の黒木繁が気付き、当時上鯖小学校長であった荒田道明に尋ねた。荒田は、大正８年春 に現地を調査して、貝塚であることを確認し、黒江隆三が此のことを「新出水誌」に掲載した。大正９年７月、鹿児島県史跡調査委員の山崎五十麿は黒江を介して荒田道明に案内されて現地に至り、一部を発掘した。これが出水貝塚発掘の最初である。」と述べている（河口　1986)。本県では、1914（大正3）年N・G・マンローにより柊原貝塚（垂水市）の発掘調査が行われており、山崎五十麿による出水貝塚の発掘調査が貝塚調査の二例目となる。

2　これまでの発掘調査の概要

前述したように、1920（大正9)年７月山崎五十麿の発掘調査によって出水貝塚の研究は開始された。山崎はこの貝塚を出水貝塚と命名するとともに、県内でも稀有の大貝塚である 可能性を考え、その一ヶ月後にも再度発掘調査を実施、その内容を考古学雑誌で報告して中央の研究者による調査を訴えた。山崎の報告によれば、二回ともに土器は多量に出土するが小片が多く、他に石器、骨角器、獣骨・魚骨 等が出土している。なお人骨片も出土したが、短く破砕されたものが多く、当初は当時食人の風習があったことを想定した[1]（山崎　1920・1921)。
山崎の調査要請に応えて、長谷部言人（東北帝國大学）は出水貝塚の発掘調査を企画し、1920（大正9）年12月濱田耕作、島田貞彦（京都帝國大学）とともに調査を実施した。調査は山崎調査地点に隣接する地点を中心に行われ、やはり土器は小片が多く、他に石器、骨角器、貝器、獣骨や人骨片等が出土している（濱田・島田　1921)。注目すべきは、出土した土器片（縄文時代後期）の中に押型文土器が認められ、その後九州の押型文土器が他地域よりも後まで残存したと考えられる一因となったこと、貝層中から馬歯が出土したことである[2]（長谷部



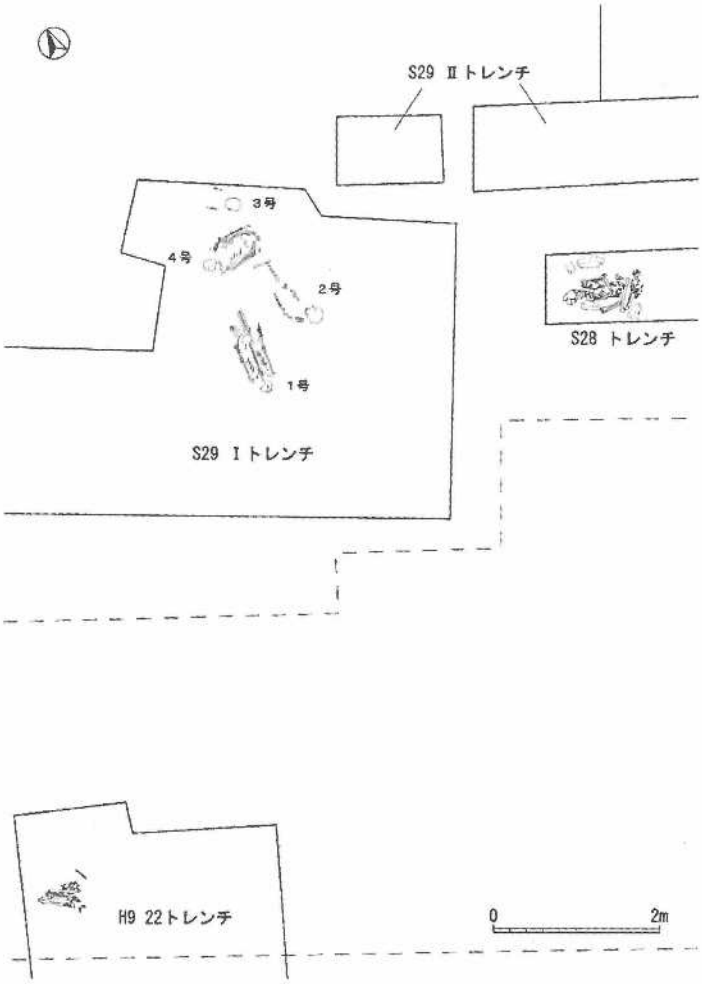
第２図　出水貝塚トレンチ配置図（左：大正９年，昭和28・29年調査時　右：平成８～９年調査時）

1921)。

馬歯の出土は、戦後馬の研究をおこなっていた林田重幸（鹿児島大学）の注意を引いた。林田は、河口貞徳（玉龍高校）とともに1953（昭和28）年12月出水貝塚の試掘を実施した。この調査では馬に関する資料は得られなかったが、貝層下の赤褐色土層に掘り込まれた土壙墓が検出され、極めて保存状態の良い仰臥屈葬の人骨一体が出土した。人骨の年代は、周辺から出土した阿高式土器から縄文時代中期と判断された（河口　1963)。

保存状態の良好な人骨の出土を知った長谷部言人は出水市に発掘調査を勧め、翌1954（昭和29）年７月から８月にかけて出水市の主催で、山内清男（東京大学）指導のもと河口貞徳が中心となり田辺義一（東京大学)、河野治雄（谷山高校)、林田重幸、山内忠平、大森浅吉（鹿児島大学）が参加して調査が実施された。前年の試掘トレンチ周辺を中心にトレンチを入れ、調査区は山内の強い意向もありことごとく砂礫層まで掘り下げて調査が行われた。その結果、砂礫層の上位に押型文土器を包含する黒色土層が初めて確認され、その上位に遺物を包含しない赤褐色土下層部を挟んで、赤褐色土層の比較的上部からその上位の貝層下底部にかけて並木式土器と阿高式土器が、貝層と赤褐色土層との境界から南福寺式土器が、貝層中からは地点を異にしながら出水式土器と市来式土器が出土、その他の人工遺物としては、貝層中から少量の石器（石斧・敲石）と石製錘飾品１点、数点の貝輪と１点の骨製品の出土が報告されている。一方、調査区の小範囲に四体の人骨が検出され、このうち二体が仰臥屈葬、一体が仰臥伸展葬、一体が頭骨以外は残存状況が不良で、いずれも縄文時代中期阿高式土器時期の埋葬人骨と判断された[3]（河口　1958)。なお、この発掘調査では馬骨や馬歯が出土し、林田と山内忠平によって詳細に報告され（林田・山内1955)、以後縄文時代馬資料の代表例の一つとして種々の文献に引用されることになった[4]。

1996（平成8）年～1998（平成10）年、出水市教育委員会は遺跡の範囲確認を目的として、重要遺跡確認発掘調査を実施した。貝塚の範囲や形成時期、生活遺構の有無、埋葬19遺構の広がり、1954（昭和29）年確認された縄文早期層の広がり、馬資料の年代等を確認するため、舌状地形の広い範囲に35ヶ所のトレンチを設定して調査はおこなわれた。調査の結果、舌状地形の先端部近くでは高さ２m以上と推定される中世の土塁が検出され、その他中世時期の柱穴や石列遺構が検出されたトレンチもあり、舌状地形のかなり広い範囲に中世時期の山城に伴う造成が行われたことを想定し、貝塚形成時期の遺構がほとんど検出されないこと、土器破片の小ささや骨角器の少なさ、人骨が山崎や京都帝國大学調査地点では埋葬形態では出土しなかったこと、馬資料の出土もそれが原因であろうと判断した。かつては台地上に大規模な貝塚が形成されたと考えられた時期もあったが、それらは中世に撹乱された二次堆積の貝層であり、出水貝塚はこれまで南九州で調査された貝塚と同様な台地縁辺部に形成された集落域貝塚であろうとし、舌状地形の北西側縁辺部と東南側縁辺部に貝塚の範囲を想定している。また、1953（昭和28）年や1954（昭和29）年の調査で埋葬人骨が検出された地点の近くに設定されたトレンチでは、上半部が撹乱土坑によって失われた屈葬状態の埋葬人骨（南福寺式土器時期とされる）が検出され、この付近に当時の埋葬域が存在することが再確認された。貝層の一部は詳細に検討され、貝層の下からは阿高式土器が、下の貝層ブロックからは南福寺式土器、上の貝層や貝層ブロックからは出水式土器が出土することを確認し、南福寺式土器から出水式土器時期に貝塚が形成されたと判断している。その他の縄文時代の遺物としては、円盤型土製品、石器（石鏃、石斧、石錘、凹石、敲石、磨石等）、貝輪、貝刃、骨製品が、古代・中世に関わるものとしては、土師器、須恵器、青磁、石鍋、カムィヤキ（南島陶質土器現在確認されている分布域の北限）等が報告された（岩崎・堂込編　2000）。



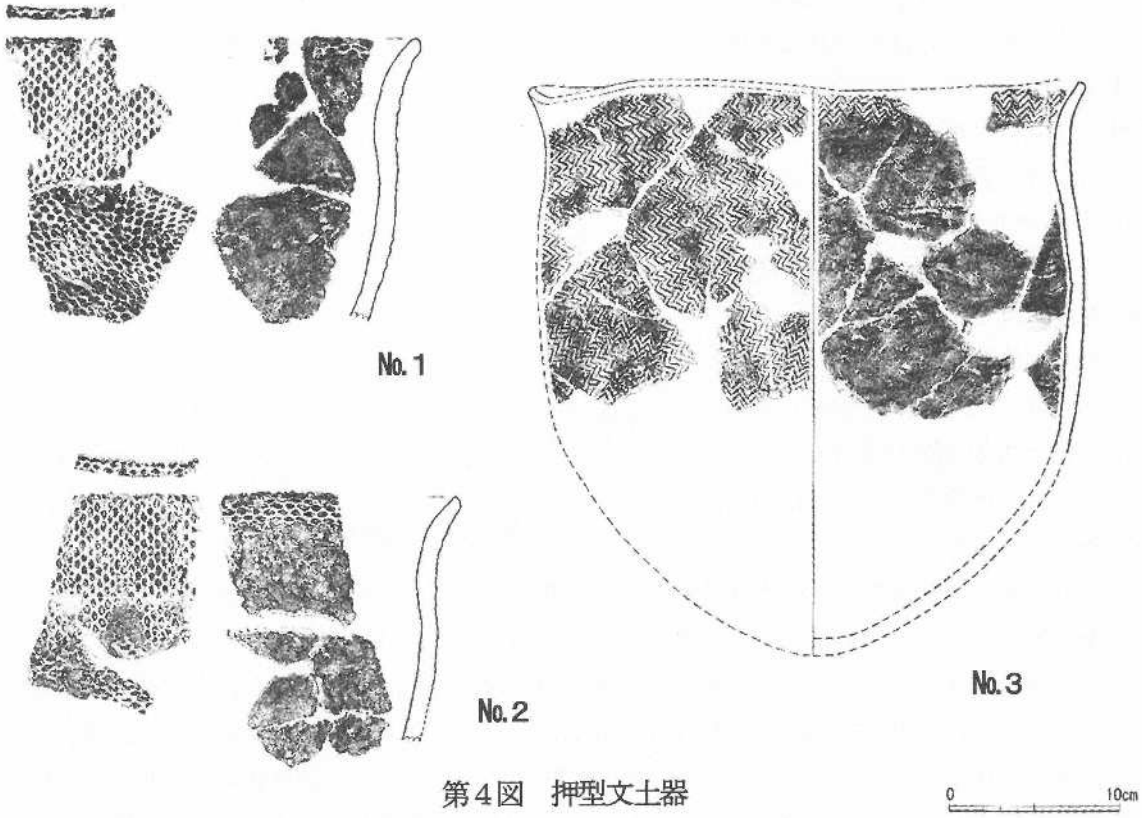
第３図　人骨出土位置図

なお、1953・1954（昭和28・29）年調査で出土した土器、石器・石製品、骨角・貝製品は、河口コレクションの一部として鹿児島県立埋蔵文化財センターに寄贈され、再実測された遺物や当時報告書に載せられなかった図面や遺物を掲載して新たな視点で報告されている（松山・大保編　2020）。

3　検出された遺構と出土遺物（河口　1958、岩崎・堂込編　2000、松山・大保編　2020参照）

これまで6回の調査で検出された遺構と出土した遺物の内、縄文時代に関連するものを簡単にまとめておきたい。

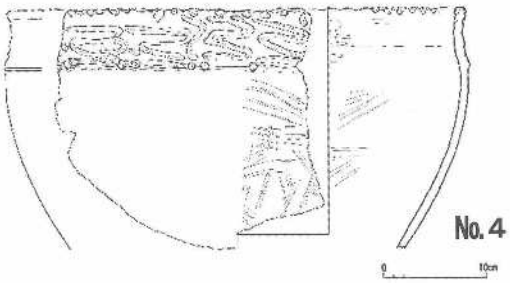
縄文時代の遺構は、中世時期の造成の影響もあってかほとんど発見されていない。ただ、舌状地形の北西部の一角に埋葬人骨が集中する地点があり、この付近に埋葬域があったことがわかる。距離的に近い山崎調査地点や京都帝國大学調査地点の人骨の出土状況は、埋葬域の一部が中世の造成等で破壊された結果であろうと考えられる。埋葬人骨の検出状況は、当時の記録や図面・写真を参考に河口コレクションの報告書で詳細に検討しまとめられている。それによれば、1953（昭和28）年検出の人骨は赤褐色土層（現在ではアカホヤ層に呼び変えている）に掘り込まれた土壙に仰臥屈葬で葬られて被覆礫があった可能性が認められ、1954（昭和29）年検出の四体の人骨は、



第4図　押型文土器

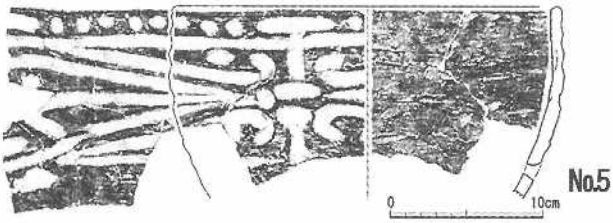
赤褐色土層やその下位の黒色土層にまで掘り込まれた土壙に仰臥屈葬や仰臥伸展葬（仰臥屈葬二体、仰臥伸展葬一体、残り一体は不明）でいずれも被覆礫があった可能性が認められている。埋葬時期は、河口の報告によればいずれも阿高式土器時期とされる。なお1997（平成9）年検出の上半部が失われた屈葬状態の埋葬人骨は、墓壙が確認されなかったようであるが、南福寺式土器時期とされる。

それ以外の遺構としては、出水市教育委員会調査で縄文時代早期と後期の集石、後期かと考えられる石錘集積が報告されている。

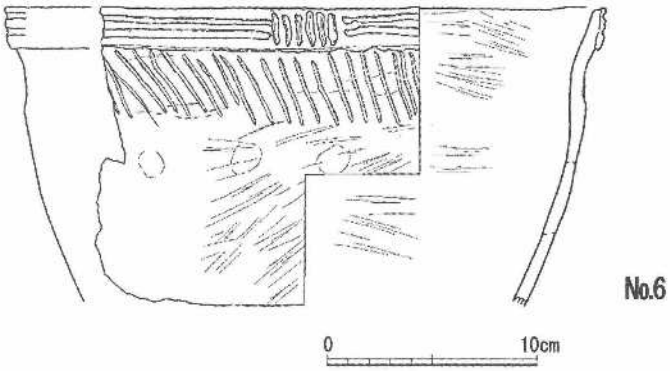


第5図　南福寺式土器

6回の調査で出土した縄文土器は、アカホヤ層下の黒色土に包含される縄文早期土器と、アカホヤ層上の貝層を中心に包含される縄文中期後半～後期中頃の土器群である。縄文早期土器はやや時間幅を持った押型文土器が主体ではあるが、小片ながら貝殻文や撚糸文・縄文を持つ土器片等も認められ、早期全般にわたっていることから、縄文時代早期の複数の時期の遺跡が地点を変えながら存在する可能性も考えられる。縄文中期後半～後期中頃の土器群は、山崎や濱田・島田の報告以来多くの研究者によって他の遺跡出土の類似する特徴を持つ土器群と比較検討されてきた。これらの土器群は、現在の型式名でいえば阿高式～市来式土器に該当する。この中でとりわけ出水貝塚で多く出土する直線的文様を持つ土器は、木村幹夫（旧制大口中学校）が出水貝塚を基調とするとして「出水式土器」と呼んで（木村　1939）今日に至っている。もちろんこれらの土器群については、その系譜や変遷について現在も種々の意見があるが、出水貝塚にみられる出土状況は、凹線文土器（阿高式土器）から沈直線文土器（出水式土器）への変遷が層位的に捉えられる例として重要であろう。また、すでに濱田・島田の報告で第二類として分別されていた土器は、縄文後期のいわゆる磨消縄文系土器であり、器形、施文、器面調整等の情報が南九州にも伝播していたことを示す一例といえる。



第６図　阿高式土器

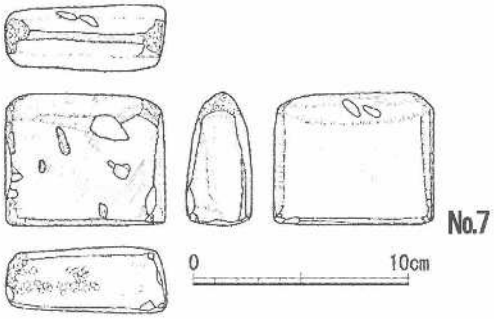


第７図　出水式土器

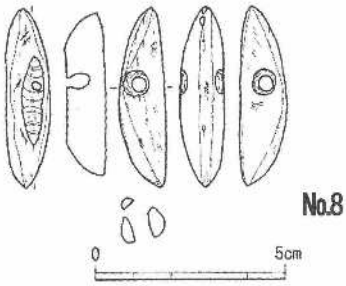
石器については調査面積の割に出土量が少ないが、石鏃、石斧、石錘、凹石、敲石、磨石等通常の縄文時代遺跡にみられるものと変化ない。石製品は、三角柱状の石製品と石製垂飾品が1954（昭和29）年の調査で出土し、再実測されて報告されている。三角柱状の石製品は三角壔（さんかくとう）形石製品にも類似し今後検討が必要であろう。石製垂飾品はその形状から緒締形大珠の転用品と判断され貴重な資料となっている。

貝器、貝製品としてはハマグリの貝刃、タマキガイやサルボウ等の貝輪やその未製品、イモガイの殻頂部利用の小玉等が報告されている。

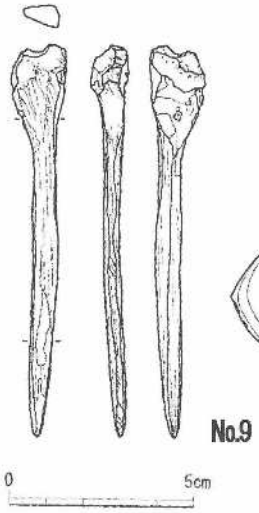
その他、自然遺物として動物遺体、貝類が同定、分析されている[5]。



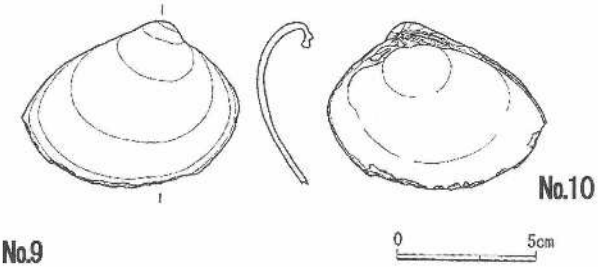
第８図　三角柱状の石製品



第９図　石製垂飾品



第10図　骨角器



第11図　貝器

4　まとめ

・押型文土器を主体とする縄文早期土器群は、1954（昭和29）年の発掘調査で縄文中期土器を包含する層の下に無遺物層を挟んで確認され（アカホヤ層下の黒色土層中で確認され）、それまで考えられていた九州の押型文土器は縄文時代後半期まで残存するという説が成立しないことを明らかにした学史的な意味を持つ土器群である。

・縄文時代後期前半の土器型式である「出水式土器」の標式遺跡であり、本貝塚出土土器はその標本というべきものである。また阿高式土器から出水式土器への型式変遷が層位的に捉えられる例としても重要である。

・装身具として貝製品（腕輪）、骨角製品（垂飾、髪飾り）等とともに石製錘飾品が出土しているが、その形状や特徴から緒締形大珠の転用品と考えられ、縄文後期の大珠再利用の好資料となっている。

・1920（大正9）年の調査で数体分の散在人骨、1953（昭和28）年の調査で一体、1954（昭和29）年の調査で四体、1997（平成9）年の調査で一体の埋葬人骨が検出されている。南九州の縄文時代埋葬人骨の検出例は少なく、当時の葬制を知る上で、また南九州縄文人の形質を知る上で極めて貴重な資料となっている。

【註】

1）1996（平成8）年から1998（平成10）年にかけて行われた出水市教育委員会による出水貝塚の重要遺跡確認発掘調査では、京都帝國大学調査トレンチの一部を確認して、京都帝國大学調査地点の大部分は中世に撹乱された二次堆積の貝層であった可能性が高く、そのため土器の破片が小さく、人骨も埋葬形態では出土しなかったと判断している（岩崎・堂込編　2000）。京都帝國大学調査地点は山崎調査地点に隣接して設定されており、山崎調査地点も同様な状況が考えられよう。なお、山崎は京都帝國大学の調査結果も踏まえてまとめた報告では、食人の風習に対して否定的な見解に変化した（山崎　1929）。

2）長谷部は、山崎資料に含まれていた馬歯も含めて出土状況を分析し、「石器時代に馬の棲息せるを確認せり」とした（長谷部　1921）。

3）後に河口は、1955（昭和30）年に行われた日本考古学協会総会での出水貝塚発掘の発表趣旨で、山内清男が「本回発掘の最大の収穫は、南九州の早期押型文土器を本貝塚下層に発見したことであり、これにこの地方にいまだ発見例の少ない縄文時代中期人骨を得たことを付加しても良い。共に貝層以下に深く発掘のメスを入れたことに凱歌が上がったわけである。」とまとめたことを回顧している（河口 1986）。

4）わが国の牛・馬の渡来時期その経路の研究をおこなった西中川　駿によれば、「（筆者注出水貝塚で1954（昭和29）年に出土した馬歯や馬骨は）共同発掘者の河口氏によれば、撹乱層であったという」とされ（西中川　1991）、発掘者間で馬歯や馬骨出土層の認定について見解が分かれていたことがわかる。また、1992（平成4）年に発表された近藤　恵・松浦秀治・中井信之・中村俊夫・松井　章による1954（昭和29）年出土の馬歯や馬骨の研究によれば、それらはフッ素年代判定法や^{14}C年代測定法から縄文時代のものではない（^{14}C年代測定された馬歯は鎌倉時代末から室町時代初頭の年代値が出ている）と判定されている（近藤　恵・松浦秀治・中井信之・中村俊夫・松井　章 1992）。

5）寄贈された河口コレクションの出水貝塚出土品の中に、ゴホウラガイ製の貝輪（あるいは錘飾品）、体層部分を打ち欠かれたヤコウガイ、ヤコウガイの体層破片、チョウセンサザエがある（松山・大保編 2020）。これらは南西諸島にみられるもので、筆者は縄文時代の本土域の調査で出土した例を知らない。また、河口は出水貝塚に関する記述の中でこれらには全く触れていないこともあり、何らかの理由で混入した可能性も考えられる。

【引用・参考文献】

岩崎新輔・堂込秀人編　2000『出水貝塚』出水市埋蔵文化財発掘調査報告書（11）
出水市教育委員会

河口貞徳　1958『出水貝塚』鹿児島県文化財調査報告書第5輯　鹿児島県教育委員会
1963「鹿児島県出水市出水貝塚」日本考古学年報6　日本考古学協会
1986「出水貝塚あれこれ」鹿児島考古第20号　鹿児島県考古学会
2005「出水貝塚」『先史・古代の鹿児島（資料編）』　鹿児島県教育委員会

木村幹夫　1939「鹿児島県先史時代の研究」1939年鹿児島県中等学校教員研究会発表資料
（1980　『木村幹夫考古学論文集』所収）

近藤　恵・松浦秀治・中井信之・中村俊夫・松井　章　1992「出水貝塚縄文後期貝層出土ウマ遺存体の年代学的研究」考古学と自然科学第26号　日本文化財科学会

西中川　駿（研究代表者）1991『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金（一般研究　B）研究成果報告書

長谷部言人　1921「出水貝塚の貝殻獣骨及び人骨」
京都帝國大學文學部考古學研究報告　第六冊

濱田耕作・島田貞彦　1921「薩摩國出水郡出水町尾崎貝塚調査報告」
京都帝國大學文學部考古學研究報告　第六冊

林田重幸・山内忠平　1955「出水貝塚の馬について」鹿児島大學農學部學術報告４巻
前迫亮一　1990「出水式土器研究史Ⅰ」阿中考古創刊号　阿久根市立阿久根中学校考古学部
「出水式土器研究史Ⅱ」阿中考古第２号　阿久根市立阿久根中学校考古学部
1992「出水式土器研究史Ⅲ」阿中考古第３号　阿久根市立阿久根中学校考古学部
松山初音・大保秀樹編　2020『出水貝塚』県内遺跡発掘調査等事業に伴う河口貞徳コレクション発掘調査報告書（3）　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（201）　鹿児島県立埋蔵文化財センター
山崎五十麿　1920「薩摩国出水貝塚に就て」考古学雑誌第11巻第１号
1921「再び薩摩国出水貝塚に就て」考古学雑誌第11巻第５号
1929「出水貝塚」鹿児島縣史蹟名勝天然記念物調査報告書第二輯　史蹟之部

【挿図の出典】

図１～図１１：鹿児島県立埋蔵文化財センター　2020『出水貝塚』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(201)より転載

出水出土品県指定一覧

リストNo.	掲載No.	遺物種別	内容等	調査	トレンチ	層位	所蔵	報告書・掲載番号	備考
1		土器	出水式土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・1	
2		土器	南福寺～出水式土器	1954年	III		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・2	
3	1	土器	押型文土器	1954年	VII		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・3	楕円押型文
4	2	土器	押型文土器	1954年	VII		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・4	楕円押型文
5	3	土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・5	山形押型文
6		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・6	山形押型文
7		土器	押型文土器	1954年	II		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・7	山形押型文
8		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・8	山形押型文
9		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・9	山形押型文
10		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・10	山形押型文
11		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・11	山形押型文
12		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・12	山形押型文
13		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・13	山形押型文
14		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・14	山形押型文
15		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・15	山形押型文
16		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・16	山形押型文
17		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・17	山形押型文
18		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・18	山形押型文
19		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・19	連珠押型文
20		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・20	連珠押型文
21		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・21	楕円押型文
22		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・22	楕円押型文
23		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・23	連珠押型文
24		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・24	連珠押型文
25		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・25	連珠押型文
26		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・26	連珠押型文
27		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・27	連珠押型文
28		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・28	楕円押型文
29		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・29	連珠押型文
30		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・30	連珠押型文
31		土器	押型文土器	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・31	楕円押型文
32		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・32	楕円押型文
33		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・33	楕円押型文
34		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・34	楕円押型文
35		土器	押型文土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・35	楕円押型文
36		土器	押型文土器	1954年？	I？		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・36	楕円押型文
37		土器	押型文土器	1954年	VII		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・37	楕円押型文
38		土器	押型文土器	1954年	VII		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・38	山形押型文
39		土器	押型文土器	1954年	VII		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・39	山形押型文
40		土器	押型文土器	1954年	VII		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・40	楕円押型文
41		土器	押型文土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・41	楕円押型文
42		土器	押型文土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・42	楕円押型文
43		土器	押型文土器	1954年	VII		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・43	山形押型文
44		土器	押型文土器	1954年？	VII		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・44	山形押型文
45		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・45	山形押型文
46		土器	押型文土器	1954年	VII		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・46	山形押型文
47		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・47	
48		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・48	連珠押型文
49		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・49	山形押型文
50		土器	押型文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・50	山形押型文
51		土器	押型文土器	1954年	IV		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・51	楕円押型文
52		土器	撚糸文土器？	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・52	
53		土器	撚糸文土器	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・53	
54		土器	撚糸文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・54	
55		土器	撚糸文土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・55	
56		土器	条痕文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・56	
57		土器	撚糸文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・57	
58		土器	撚糸文土器	1954年	V		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・58	
59		土器	並木式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・59	
60		土器	並木式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・60	
61		土器	並木式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・61	
62		土器	並木式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・62	
63		土器	並木式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・63	
64		土器	並木式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・64	
65		土器	並木式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・65	
66		土器	並木式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・66	
67		土器	並木式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・67	
68		土器	並木式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・68	
69	5	土器	阿高式土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・69	
70		土器	阿高式土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・70	
71		土器	阿高式土器	1954年	II		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・71	
72		土器	阿高式土器	1954年	II		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・72	
73		土器	阿高式土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・73	
74		土器	阿高式土器	1954年	II		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・74	
75		土器	阿高式土器	1954年	II		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・75	
76		土器	阿高式土器	1954年	II		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・76	
77		土器	阿高式土器	1954年	II		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・77	
78		土器	阿高式土器	1954年	II		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・78	
79		土器	南福寺式土器	1954年	II		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・79	
80		土器	南福寺式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・80	
81		土器	南福寺式土器	1954年	III		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・81	
82		土器	出水式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・82	
83		土器	南福寺式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・83	
84		土器	南福寺式土器	1954年	VI		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・84	
85		土器	後期土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・85	
86		土器	南福寺式土器	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・86	
87		土器	南福寺式土器？	1954年	I		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・87	
88		土器	出水式土器	1954年	III		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・88	
89		土器	出水式土器	1954年	III		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・89	
90		土器	出水式土器	1954年	III		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・90	

出水出土品県指定一覧

リストNo	掲載No	遺物種別	内容等	調査	トレンチ	層位	所蔵	報告書・掲載番号	備考
91		土器	出水式土器？	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・91	
92		土器	阿高式土器？	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・92	
93		土器	後期土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・93	
94		土器	後期土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・94	
95		土器	後期土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・95	
96		土器	阿高式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・96	
97		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・97	
98		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・98	
99		土器	出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・99	
100		土器	出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・100	
101		土器	出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・101	
102		土器	出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・102	
103		土器	出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・103	
104		土器	出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・104	
105		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・105	鯨骨圧痕
106		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・106	
107		土器	磨消縄文土器？	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・107	
108		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・108	
109		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・109	
110		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・110	
111		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・111	
112		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・112	
113		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・113	
114		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・114	
115		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・115	
116		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・116	
117		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・117	
118		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・118	
119		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・119	
120		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・120	
121		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・121	
122		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・122	
123		土器	出水式土器	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・123	
124		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・124	
125		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・125	
126		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・126	
127		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・127	
128		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・128	
129		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・129	
130		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・130	
131		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・131	
132		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・132	
133		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・133	
134		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・134	
135		土器	出水式土器	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・135	
136		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・136	
137		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・137	
138		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・138	
139		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・139	
140		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・140	
141		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・141	
142		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・142	
143		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・143	
144		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・144	
145		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・145	
146		土器	市来式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・146	
147		土器	市来式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・147	
148		土器	市来式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・148	
149		土器	市来式土器	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・149	
150		土器	市来式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・150	
151		土器	市来式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・151	
152		土器	市来式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・152	
153		土器	市来式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・153	
154		土器	市来式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・154	
155		土器	市来式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・155	
156		土器	市来式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・156	
157		土器	市来式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・157	
158		土器	市来式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・158	
159		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅰ		出水市	県埋セ(2020)・159	
160		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・160	
161		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・161	
162		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・162	
163		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅰ		出水市	県埋セ(2020)・163	
164		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・164	
165		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・165	
166		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・166	
167		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・167	
168		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・168	
169		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・169	鯨骨圧痕？
170		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・170	
171		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・171	
172		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・172	
173		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・173	鯨骨圧痕
174		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・174	
175		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・175	
176		土器	浮形文土器	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・176	
177		土器	貝殻条痕文土器(早期)	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・177	
178		土器	阿高式土器	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・178	
179		土器	南福寺式土器	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・179	
180		土器	並木式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・180	

出水出土品県指定一覧

リストNo.	掲載No.	遺物種別	内容等	調査	トレンチ	層位	所蔵	報告書・掲載番号	備考
181		土器	志風頭式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１８１	
182		土器	早期土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１８２	
183		土器	阿高式土器	1953年			県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１８３	
184		土器	阿高式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１８４	
185		土器	阿高式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１８５	
186		土器	阿高式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１８６	
187		土器	阿高式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１８７	
188		土器	阿高式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１８８	
189		土器	阿高～南福寺式土器	1953年			県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１８９	
190		土器	阿高～南福寺式土器	1953年			県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１９０	
191		土器	阿高～南福寺式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１９１	
192		土器	阿高～南福寺式土器	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１９２	
193		土器	南福寺式土器	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１９３	
194		土器	南福寺式土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１９４	
195		土器	南福寺式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１９５	
196	4	土器	南福寺式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１９６	
197		土器	出水式土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１９７	
198		土器	出水式土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１９８	
199		土器	出水式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・１９９	
200		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２００	
201		土器	出水式土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２０１	
202		土器	出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２０２	
203		土器	出水式土器	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２０３	
204	6	土器	出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２０４	
205		土器	出水式土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２０５	
206		土器	出水式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２０６	
207		土器	出水式土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２０７	
208		土器	出水式土器	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２０８	
209		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２０９	
210		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２１０	
211		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２１１	
212		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２１２	
213		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２１３	
214		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２１４	
215		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２１５	
216		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２１６	
217		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２１７	
218		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２１８	
219		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２１９	
220		土器	磨消縄文土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２２０	
221		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２２１	
222		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２２２	
223		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２２３	
224		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２２４	
225		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２２５	
226		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２２６	
227		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２２７	
228		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２２８	
229		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２２９	
230		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２３０	
231		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２３１	
232		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２３２	
233		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２３３	
234		土器	阿高式土器	1953年			県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２３４	鯨骨圧痕
235		土器	南福寺～出水式土器	1953年			県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２３５	
236		土器	南福寺～出水式土器	1953年			県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２３６	鯨骨圧痕？
237		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２３７	鯨骨圧痕？
238		土器	南福寺～出水式土器	1953年			県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２３８	鯨骨圧痕？
239		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２３９	
240		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅶ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２４０	
241		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２４１	
242		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２４２	
243		土器	後期土器	1954年	Ⅱ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２４３	
244		土器	南福寺～出水式土器	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２４４	編物圧痕
245		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２４５	
246		土器	南福寺～出水式土器	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２４６	
247		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２４７	
248		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２４８	鯨骨圧痕
249		土器	南福寺～出水式土器	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２４９	赤色顔料付着
250		土器	後期土器	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２５０	
251		土器	後期土器	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２５１	
252		土器	後期土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２５２	
253		土器	後期土器	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２５３	赤色顔料付着
254		土器	後期土器	1953年			県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２５４	
255		土器	円盤形土製品	1954年	Ⅵ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２５５	
256		土器	円盤形土製品				県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２５６	
257		土器	円盤形土製品	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２５７	
258		土器	円盤形土製品	1954年	Ⅴ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２５８	
259		土器	円盤形土製品	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２５９	
260		土器	円盤形土製品	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２６０	
261		土器	円盤形土製品	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２６１	
262		土器	円盤形土製品	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２６２	
263		土器	円盤形土製品	1954年	Ⅲ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２６３	
264		土器	円盤形土製品	1954年	Ⅰ		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２６４	
265		土器	円盤形土製品	1954年？	Ⅲ？		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２６５	
266		土器	円盤形土製品	不明	不明		県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２６６	
267		石器	石核				県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２６７	黒曜石（日東系）
268		石器	石核				県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２６８	黒曜石（日東系）
269		石器	石核				県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２６９	黒曜石（日東系）
270		石器	剥片				県立埋蔵文化財センター	県埋セ(2020)・２７０	黒曜石（日東系）